

## 第2日目 6月3日(日) A会場 工学部 IB館 011号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	A-21	国際移動とエスニック・ネットワークの形成過程—カナダ日系女性移住者の事例から—	山田 千香子 長崎県立大学
9:25 9:45	A-22	多文化都市トロントにおけるエスニック高齢者施設の展開—イメージとしての「民族文化」に集う人々—	鈴木 七美 国立民族学博物館
9:50 10:10	A-23	挫かれた過去—ニューヨーク・ハーレムのアフリカ系アメリカ人ムスリム・コミュニティにおける歴史とアーカイヴ—	中村 寛 一橋大学大学院社会学研究科博士課程
10:15 10:35	A-24	アフリカの神々を崇拝するアフリカ系アメリカ人の社会運動の再編—集合的活動拠点と個人崇拜組織とのつながり—	小池 郁子 京都大学大学院・日本学術振興会
10:40 11:00	A-25	アメリカにおける国立公園政策と国際協力—自然的・文化的価値の創出と伝授—	寺崎 陽子 一橋大学大学院社会学研究科地球社会研究専攻
11:05 11:25	A-26	アメリカ合衆国南西部におけるウラン鉱山の先住民に与える影響—ラブナ・プエブロ保留地内ジャックパイル鉱山を中心に—	玉山 ともよ 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻
11:30 11:50	A-27	カナダ西岸先住民サーニッチによるアルコール依存症への対応としてのスウェット・ロッジ	渥美 一弥 自治医科大学
11:55 12:15	A-28	「銃文化」と実践、モノ—アメリカ「銃文化」における日本人留学生射殺事件を通して—	高泉 拓 北海道大学大学院
12:20 12:40	A-29	1970年以降におけるアメリカ人類学の潮流	山田 亨 ハワイ大学大学院

## 第2日目 6月3日(日) B会場 工学部 IB館 012号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	B-21	韓国・済州道における遺体なき死者の追悼—行方不明者「望思碑」の碑文をめぐって—	高村 竜平 神戸山手大学
9:25 9:45	B-22	韓国における迷信打破運動と巫俗信仰—巫業者組織「敬信会」の活動から—	金 良淑 東京大学大学院
9:50 10:10	B-23	韓国の臓器移植にみる儒教—生体移植の表象を中心に—	中村 八重 広島国際大学非常勤講師
10:15 10:35	B-24	ある劇作家の挑戦—大分市T劇団の旗揚げ—	宮下 良子 跡見学園女子大学
10:40 11:00	B-25	日本在住「脱北者」の生業とネットワーク	季 仁子 東北大学大学院
11:05 11:25	B-26	「在日日系ブラジル人」研究における認識論的問題—二つの空間性を巡って—	佐々木 剛二 東京大学大学院総合文化研究科博士課程
11:30 11:50	B-27	ブラジル人のコミュニティと子どもの健康—ブラジル人が相談相手に接合する場をめぐって—	大谷 かがり 愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期課程
11:55 12:15	B-28	「移民予備軍」の若者たち—後期モダニティにおける日本人青年の「自己」観と世界観	加藤 恵津子 国際基督教大学
12:20 12:40	B-29	ハワイでロングステイをするリタイア組—日本とハワイの生活習慣の様相をめぐる考察—	千崎 香澄 首都大学東京大学院

## 第2日目 6月3日(日) C会場 工学部 IB館 013号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	C-21	南インドのドラヴィダ人女性—ケーララ州看護婦の事例—	アントニサーミ・サガヤラージ 南山大学
9:25 9:45	C-22	参加型開発における女性のネットワーク構築—北インド農村を事例として—	菅野 美佐子 総合研究大学院大学
9:50 10:10	C-23	「リザーヴェーション」論再考—北インド、ウッタル・プラデーシュ州における「改宗仏教徒」の事例から—	舟橋 健太 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
10:15 10:35	C-24	鍛冶職カーストの低位区分名称と内部構造—インド、西ベンガル州、ビシュヌプル市のカルマカルを事例として—	齋藤 貴之 北海道大学
10:40 11:00	C-25	モノの生産過程における「役割」と「能力」—インド・オリッサ州で布をつくる人々の「制作」と「製作」を中心に—	佐藤 誠 立教大学文学研究科博士後期課程
11:05 11:25	C-26	「ことば」の科学—インド、ゴア社会における文字論争と大衆劇をめぐって—	松川 恭子 奈良大学
11:30 11:50	C-27	女神信仰と社会空間—インド北西部タール砂漠における女神の神話と聖地をめぐって—	小西 公大 東京都立大学大学院/日本学術振興会特別研究員
11:55 12:15	C-28	インドヒマラヤのチベット系諸社会における世帯運営と婚姻の問題	棚瀬 慈郎 滋賀県立大学
12:20 12:40	C-29	スィク教徒の移住と信仰—日本におけるスィク・コミュニティとその役割—	東 聖子 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程

## 第2日目 6月3日(日) D会場 工学部 IB館 014号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	D-21	ロンドンの仮装芸術が表象する「アフリカ」—ノッティングヒル・カーニバルの事例より—	木村 葉子 名古屋大学大学院
9:25 9:45	D-22	スペイン・バルセルナのアソシエーション活動と祭り—都市のなかの創造活動—	中村 節子 名古屋大学大学院
9:50 10:10	D-23	聖なるモノのある「場所」—願掛け <i>NaghmelWeghda</i> と感謝巡礼 <i>Pellegrinagg' / Zjara ta' Ringrazzjament</i> の調査から—	藤原 久仁子 法政大学非常勤講師
10:15 10:35	D-24	スピリチュアルな日常を生きる—英国グラストンベリーのヒーリング実践と女神運動を事例に—	河西 瑛里子 京都大学
10:40 11:00	D-25	北欧型福祉国家と教会—フィンランド西南部のルシア祭慣行にみる慈善・博愛・福祉—	高橋 絵里香 東京大学大学院
11:05 11:25	D-26	スヴォイ—停滞期ソ連が生み出した小集団の当時と今—	岡本 由良 大阪大学大学院人間科学研究科
11:30 11:50	D-27	ドイツにおけるアレヴィ関連団体の展開—トランスナショナルな共同性の「想像／創造」—	石川 真作 京都文教大学客員研究員
11:55 12:15	D-28	近代の誤謬—削除主義と市場主義—	中川 敏 大阪大学大学院
12:20 12:40	D-29	知識表現としてのオントロジー—概念の形態と記述の方法について—	織田 竜也 東京大学空間情報科学研究センター

## 第2日目 6月3日(日) E会場 工学部 IB館 015号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	E-21	越境するジンと治療技術—ビルマにおける雲南系ムスリムの民間治療に関する調査中間報告—	木村 自 滋賀大学・奈良大学非常勤講師
9:25 9:45	E-22	マレーシアにおける徳教の展開—華人扶鸞教団の一形態—	黄 蘊 北陸大学
9:50 10:10	E-23	人口移動と経済活動を通して見たマレーシア、サラワク州における華人の居住パターンの変化	市川 哲 国立民族学博物館・機関研究員
10:15 10:35	E-24	Marriage Ceremonies of Hakka Women—A Case Study in Tapah Village, Sarawak, Malaysia—	Elena Gregoria Chai UNIMAS
10:40 11:00	E-25	マレーシア華人の「家」で作られる関係性	櫻田 涼子 筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻
11:05 11:25	E-26	かりそめの村と不法な集落—マレーシア・サバ州の事例より—	上田 達 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程
11:30 11:50	E-27	小商い: サリサリストアの持続と変容—フィリピン・ビサヤ地方の事例—	小林 孝広 早稲田大学
11:55 12:15	E-28	環境をめぐる制度、行為主体、社会的実践—フィビンの海域資源管理の事例から—	関 恒樹 広島大学
12:20 12:40	E-29	鍛冶師の技法	青木 啓将 名古屋大学大学院文学研究科

## 第2日目 6月3日(日) F会場 工学部 IB館 015号室

13:50—15:50 総会

---

### シンポジウム 21世紀地球人類の危機と人類史

司会

佐藤弘明(浜松医科大学)・今村薫(名古屋学院大学)

16:00—18:00

パネラー

赤澤威(高知工科大学)「人類史運命の分かれ目: 旧人ネアンデルタールと新人ホモ・サピエンスの交替劇」

嶋田義仁(名古屋大学)「乾燥地からみた人類文明」

市川光雄(京都大学)「人類の生活環境としての熱帯雨林: 歴史生態学的視点から」

煎本孝(北海道大学)「人類の進化と北方適応」

竹沢泰子(京都大学)「人種問題とは何か」

## 第2日目 6月3日(日) G会場 工学部 2号館 221号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	G-21 「他者」のような「被害」—原爆の被爆者に関する文化人類学的研究に向けて—	根本 雅也	一橋大学大学院社会学研究科博士課程
9:25 9:45	G-22		
9:50 10:10	G-23 「民俗」行事の再活性化と地域おこしの連携—宮古島「パントウ」と文化財指定制度に関連して—	佐藤 純子	名古屋大学大学院文学研究科
10:15 10:35	G-24 「老い」を形成するもの—沖縄離島における「老い」へのまなざしから—	後藤 晴子	九州大学大学院・人間環境学府
10:40 11:00	G-25 死者儀礼についての物語り—現代の沖縄の口寄せとしての「ミーサー」と「ユタ」体験—	村松 彰子	成城大学大学院
11:05 11:25	G-26 墓と故郷—現代沖縄における「墓の移動」を通じて—	越智 郁乃	広島大学大学院
11:30 11:50	G-27 沖縄社会における「トートメー(位牌)問題」議論の意義—人びとの声と、新聞社による提案との距離—	吉田 佳世	東京都立大学
11:55 12:15	G-28 沖縄の市場における豚の内臓類の商品化と売買—売り手と買い手の身体的能力を中心に—	比嘉 理麻	筑波大学大学院人文社会科学研究科
12:20 12:40	G-29 沖縄県粟国島における伝統的民間療法の研究—動物由来の民間薬と薬膳を中心に—	林 美枝子	札幌国際大学

## 第2日目 6月3日(日) H会場 工学部 2号館 222号室

8:30	発表登録受付		
9:00 9:20	H-21 共同体の近代化と重なるネットワーク—ネパール、タカリー民族協会を事例に—	森田 剛光	名古屋大学大学院文学研究科
9:25 9:45	H-22 ネパール・ネワール族女性の自助組織「ミサ・プツァ」をめぐる新たな生き方	竹内 愛	名古屋大学大学院
9:50 10:10	H-23 食べられる米と供される米—ネワール社会(ネパール)における米飯の象徴性—	山上 亜紀	
10:15 10:35	H-24 規格化と郷愁—ネパール、ビヤンスをめぐる伝統の語られ方の近年の展開—	名和 克郎	東京大学東洋文化研究所
10:40 11:00	H-25 人類学と音楽学はいかに接合しうるか—キューバ国内の動向を俯瞰しながら—	倉田 量介	東京大学・放送大学非常勤講師
11:05 11:25	H-26 移民を支える村の人間関係—メキシコ、オアハカ州のサポテコ人村落の事例から—	山内 熱人	京都大学人間・環境学研究所
11:30 11:50	H-27 ネオリベリズムが呼び起こす亡霊—グアテマラにおける人権と先住民慣習法の明暗—	太田 好信	九州大学・比較社会文化研究院
11:55 12:15	H-28 実践としてのサウンドスケープデザイン	片桐 保昭	北海道大学大学院文学研究科
12:20 12:40	H-29 過去におけるフィールドワーク—人類学的方法としてのオーラル・ヒストリーの利用—	アンドリュー・カニング	東京大学大学院

## 第2日目 6月3日(日) I会場 工学部 2号館 231号室

8:30 発表登録受付

9:00	【分科会】	第四世界考—フィールドはいかに記述できるのか—		
10:35	【代表者】	内藤 順子(日本学術振興会特別研究員PD・日本女子大学)		
I-21		「貧困」に架ける橋—「下からの民族誌記述」に向けて—	内藤 順子	日本学術振興会特別研究員PD・日本女子大学
I-22		善き隣人となるために—蒙古善隣教会の「工作」から—	磯田 和秀	成城大学民俗学研究所
I-23		性別(セックス)は誰が決めるのか—インド、グジャラート州に生きるヒジュラの同一性を巡る問題—	國弘 暁子	神奈川大学COE研究員
I-24		つながりの民族誌—フランス、パリ郊外のマグレブ系移民の生活実践から—	植村 清加	成城大学民俗学研究所
10:40	I-25	女性が山岳修行するということ—大峯・御嶽の女性行者の語りから—	小林 奈央子	名古屋大学大学院文学研究科
11:00				
11:05	I-26	「伝統の祭り」儀礼とその意味づけの変遷—伊豆半島・須崎漁村の夏祭りの事例から—	齋藤 典子	名古屋大学大学院文学研究科
11:25				
11:30	I-27	都市における伝統の生成と継承—「よさこい」系祭りの支持母体—	矢島 妙子	
11:50				
11:55	I-28	「見せること」と「見ること」—「岡山桃太郎王国記念館」の事例を中心に—	加原 奈穂子	東京芸術大学非常勤講師
12:15				
12:20	I-29	「地域文化観光」論—「真正性」の議論を超えて—	橋本 和也	京都文教大学
12:40				

## 第2日目 6月3日(日) J会場 工学部 2号館 232号室

8:30 発表登録受付

9:00	【分科会】	文字記録の文化人類学—東アジアのフィールドから—		
10:35	【代表者】	瀬川 昌久(東北大学東北アジア研究センター)		
J-21		題字から読む中国—近代碑の分析を中心に—	高山 陽子	東北大学
J-22		文字と贈与—近世・近代日本の贈答記録の分析から—	山口 睦	東北大学
J-23		現代中国において歴史を記すこと—村誌編纂の事業を通して—	川口 幸大	東北大学
J-24		韓国巫俗の文字化とジェンダー—韓国無形文化財シッキムクツの事例を中心に—	李 善姫	東北大学
10:40	【分科会】	「現場」への挑戦／「現場」からの挑戦—応用・実践を目指した文化人類学の再検討—		
12:40	【代表者】	松岡 悦子(旭川医科大学)		
J-25		エスノグラフィーと「現場」—平和構築にコミットする人類学のための方法論的考察—	小田 博志	北海道大学大学院
J-26		人類学の「応用」か「借用」か「誤用」か?—人口学における人類学的研究の場合—	仲川 裕里	専修大学
J-27		地域資源としての「福祉」—自治体・住民・福祉団体の福祉の現場における当事者性—	宮下 克也	北里大学
J-28		「ジェンダー」をどう伝えるか—学校性教育への文化人類学からの挑戦—	加賀谷 真梨	放送大学
J-29		医療の応用人類学的研究における課題と可能性—脳死・臓器移植を事例として—	波平 恵美子	